

スーパーFJ 富士チャンピオンレースシリーズ 第2戦
田中選手6位で入賞

前回、富士の開幕戦では練習不足がたり、予選、決勝と満足いく内容とはいえませんでした。開幕戦が終わってから短期間で第2戦が開催されたため、もっぱらドライビングのイメージ構築、トレーニングした。今回の目標は、①1分52秒台に突入する事、②決勝で表彰台に乗ることの二つとしました。

- 5月12日 1本目ドライ。単独で走行し、かろうじて53秒台に入る。ユーズドタイヤではあったものの、開幕戦で得られたイメージの再現を試みた。今年のシャシー(10V)はドライビングをミスしたときのリカバリーをマシンがしてくれるので、勝負に有利な感触を得た。またトラクションの掛かりがよく、ブレーキ → ターンインの動作が重要になると感じた。
2本目、3本目 途中から雨が降り出したので雨用セッティングのトライを行った。
マシンの挙動と雨ラインの確認は出来たが、速さに繋がるどうかは比較できなかった。
- 5月14日 全走行ドライ、タイヤは比較的状态の良い前回のレース落ちを使用した。練習走行からコーナー進入、立ち上がり、走行ラインを数パターン、3~5周ずつ試したが、どれもしっくりこない。加速時のマシン挙動には安心感があるが、減速→ターンイン時のリア挙動に不安感があり、全コーナーとも思い切った飛込みが出来ずにいた。監督、メカニックと相談し、コーナーアプローチを重点的に修正するようにアドバイスをもらい、走行を消化した。しかしながら慎重になりすぎ、旋回速度を落とすことに繋げてしまいタイムは54秒から上がらないままだった。
- 5月15日 前は後方グループに捕まってしまったため、今回は好タイムを出すグループに着いて走りたい。しかし、ピットアウトのタイミングを逃し、後方グループのなかに紛れ込んでしまった。焦りからシフトアップのミスを連発し24台中10番手で予選を終えた。次戦は1周待ってでも速いグループの中に入り込めるようにタイミングを合わせたい。
- 5月15日 決勝 スタートは割と上手く決まり、3週目からファイナルラップまで4つ巴の競り合いとなった。ほぼ毎コーナーでブレーキ勝負になったが、前車を抜こうとして失速した際に後方車両にかわされる場面もあった。ファイナルラップのダンロップコーナーでブレーキ勝負して1台かすことができた。ペース的にはさらに前のもう一台もかわせそうだったが、最終コーナーで競り負け6位でレースを終えた。

総評 今回のレースを自己評価すると予選50点、決勝65点というところでは、今年、KK-Sから10Vに乗り換えて感じた事が有ります。コーナー進入は両者とも同じ、立ち上がりはマシン特性も手伝って若干10Vが有利と感じています。決勝を通じてコーナー進入の理想系にはだいぶ近づいてきたのですが、毎ラップとも同じ操作が出来ていません。マシンを乗りこなすにはもう少し時間がかかりそうな感じが有ります。今回応援に来てくださった皆さんからは「4つ巴のバトルは本当に見ごたえがあった」と言ってもらえました。リザルトはタナボタもあり不満ですが、見てる人が面白いと感じるレースが出来た点については満足していますし、大変うれしく感じています。次戦はさらに活躍できるように尽力致します。

中村監督コメント アルビレックスRTとして今年度の入賞目標を前半戦でクリアでき、大変嬉しくおもいます。所属選手達も着実に実力をつけ、次戦では全選手で表彰台を狙っていきます。田中選手は今回我慢のレースでしたが、精神的に大きく前進いたしました。今後とも応援宜しくお願いいたします。



Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計
埼玉・川口
http://www.tkcnf.com/sds

P PLUS

Moty's
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

SPN
SPEED PARK NIIGATA